〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 Fax. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

# 山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

1 月号
第 60 巻　第 12 号
2016 年

無料
Free

もくじ

今月の 1 枚 …… 1ページ
・友の会サークル「ボランティアの会」「山岳文化研究所」合同研修事業を実施しました
博物館のひろば …… 2～4ページ
・おおまびょんからの挑戦状
・ライチョウサポーターサポーターズ養成講座
・安曇野アートライン展
・植物標本資料整理
・博物館消防訓練
・日動水事務主任者会議
・安曇野アートラインシンポジウム
・館内害虫モニタリング調査　ほか

博物館施設案内はこちら

ボランティアガイドによる展示解説を受ける参加者（東京都江戸東京博物館にて）

## 友の会サークル「ボランティアの会」「山岳文化研究会」合同研修事業を実施しました

関　悟志

山岳博物館友の会（会長：宮澤洋介氏）では、平成27年12月5日（土）・6日（日）に、「ボランティアの会」と「山岳文化研究会」の２つのサークル合同による研修を横浜・東京方面で行い、会員15人が参加しました。「ボランティアの会」では、会員相互の自己研鑽のために県内や近隣の博物館等へ出かけての研修を例年行っています。今年は、登山史など北アルプスの歴史や民俗について研究を行うサークル「山岳文化研究会」の研修とあわせて実施しました。

明治維新後、来日した外国人のなかに、調査研究や趣味によって日本で登山を行った人びとがいました。彼らが当時滞在した横浜を訪れ、ウォルター・ウェストンが司祭を務めた横浜聖アンデレ教会や小島烏水が勤務した横浜正金銀行本店（現神奈川県立歴史博物館）などを見学し、日本近代登山のはじまりについて学びました。あわせて、明治維新前後の歴史背景を学ぶため、江戸・東京の都市と文化や生活を紹介する東京都江戸東京博物館を見学しました。

サークル「山岳文化研究会」会員にとっては、北アルプスの登山史にかかわる横浜周辺のフィールドを探訪し、都内の歴史民俗系博物館を見学したことで、外国人らの日本における近代登山黎明期の様子と、江戸から明治へという当時の時代背景を知る学習の機会となりました。一方、サークル「ボランティアの会」会員にとっては、各博物館でボランティアによる展示解説を実際に受けることで、来館者への接し方やガイド方法等についての実例を体験し、春のゴールデンウィークや夏休み期間中に実施している山岳博物館の館内案内・説明ボランティアに必要な知識や経験を養う好機となりました。

友の会は山岳博物館の外郭団体です。ここに集う会員の方々は、博物館を通して知識向上を図るとともに、日頃さまざまな場面で博物館事業に協力していただいている地域住民あるいは全国の有志の皆さんです。とりわけ、友の会内に現在4つあるサークルで活動を実践している会員の皆さんは、博物館の活動を市民レベルで担う貴重な人材の中核です。活発な各サークルの動きによって、友の会活動がより一層充実したものになることを大いに期待します。　（市立大町山岳博物館 学芸員）

# 博物館のひろば

**山岳博物館　市民「無料」開放デー**

博物館では、毎月第３日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。１月は16日（土）と17日（日）です。

## 鷹狩山・霊松寺紅葉トレッキング

平成27年11月１日（日）実施

大町市イベント実行委員会主催の鷹狩山・霊松寺紅葉トレッキングが11月１日に実施され、山岳博物館からも実行委員として参加し、協力を行いました。

トレッキングには、県内外より約90人の参加があり、快晴のなか紅葉と北アルプスの眺望を堪能しながらのトレッキングとなりました。途中では北アルプスの名前や霊松寺のオハツキイチョウの解説などで自然や寺院の歴史を学んだり、鷹狩山山頂などでは豚汁等のおもてなしもあり、参加者の皆さんは体を動かしながら、自然を満喫できた一日となりました。

来年以降も開催いたしますので、これまで参加したことのない方はぜひ挑戦してみてください。

## おおまぴょんからの挑戦状２

平成27年11月３日（火・祝）実施

大町市商工労政課主催のこの事業は、大町への誘客・宣伝を目的として、11月３日、「おおまぴょんからの挑戦状２　ザ・リベンジ！」と題した街歩きイベントが実施され、山岳博物館も同事業に全面的に協力しました。

長野県内各地より93人の方々が大町市へ訪れ、それぞれにチームを組み、商店街、市内の名所・旧跡においてクイズに答えながら巡りました。博物館では「望遠鏡で3階の展望室から眺めると、北アルプスの山小屋がいくつみえるかな？」など工夫をこらした質題があるなど、参加者の皆さんに楽しんでいただきながら北アルプスと大町市、博物館を学んでいただく良い機会となりました。

## 長野県診療放射線技師会主催「学術大会」への講師派遣

平成27年11月８日（日）実施

長野県診療放射線技師会が主催する「平成27年度長野県診療放射線技師学術大会」の一般公開講座に、当館の指導員が講師として参加しました。また当日は安曇野市穂高交流センター「みらい」にて、同指導員により「雲上の霊鳥ライチョウ」と題した講演を行いました。

同大会は毎年県下で開催され、今回は約150人の参加者がありました。今年はライチョウに関する話題がマスメディアに取り上げられることが多く、関心が高まっている中、ライチョウの生活を知っていただき、国や当館の取り組みについての理解をしていただくには大変良い機会となりました。

【写真提供：長野県診療放射線技師会中信支部】

## 山岳博物館　消防訓練

平成27年11月12日（木）

博物館では消防法に基づき、火災や地震災害から、観覧者の方々や博物館資料を未然に防ぐため、防火管理に係る消防計画書を作成し、日頃から防災等に努めています。

年２回の定期的な消防用設備の点検や年１回の消防訓練を実施しています。

今回の消防訓練では、消防署への火災通報訓練、入館者を安全に外へ誘導する避難誘導訓練、消火器や館内に設置されている屋内消火栓設備の使用方法についての実践訓練を行いました。

日頃から様々な非常事態時を想定し、訓練を行い、いざという時に適切な対応が執れるようにすることが、人と大切な物を預かる博物館の大切な仕事でもあります。

## ライチョウサポーター養成講座及びライチョウサポーターズ発足式

平成 27 年 11 月 15 日(日)

長野県では、山岳博物館と連携し、ボランティアでライチョウ保護の普及啓発等に活動いただく『ライチョウサポーターズ』事業を今年度から開始しました。

この発足式が 11 月 15 日（日）に山岳博物館で行われサポーターズ登録書の授与により、この時点で 65 人の方が登録されました。今後はボランティアの皆さんがライチョウ生息地のパトロール活動など各種保護事業に参加され、自然環境やライチョウの保護にご尽力いただくことになります。なお当日は発足式に先立ち、ライチョウの基礎知識を学習する信州大学名誉教授の中村浩志先生によりライチョウサポーターズ養成講習会が開催されました。

## 日本動物園水族館協会中部ブロック事務主任者会議

11 月 19 日(木)・20 日(金)実施

（公社）日本動物園水族館協会中部ブロック（加盟館 34 園館）の平成 27 年度事務主任者会議が、本年は大町山岳博物館が担当館として黒部観光ホテルを会場に実施しました。

会議では、各園館が運営や経営的な立場から、様々な課題や問題点を出し合いながら、情報共有を行い、課題解決を図りました。動物園や水族館の運営など特殊な課題も多かったですが、一方で先進的な取り組みなどの報告も聞くことができ、今後の館の運営に役立てていけるものと考えています。翌日には参加した会員の皆さんに博物館を視察いただき、専門的な立場から意見を聞く良い機会となりました。

## 安曇野アートライン展

展示：11月21日（土）～12月23日（水・祝）

今年で第11回目になる安曇野アートライン推進協議会主催の安曇野アートライン展が、平成27年11月21日（土）～ 12月23日（水・祝）にかけて国営アルプスあづみの公園〔堀金・穂高地区〕多目的ホールで開催されました。期間中、国営公園では「光の森のページェント」と題したイルミネーション（平成27年11月7日～平成28年1月11日）が開催され、各館から出品された芸術作品と一体となってアートの世界を体感できる展示会となりました。

山岳博物館からは山川勇一郎氏の水彩画５点を展示し、来館者の皆さんにご覧いただきました。

## 安曇野アートラインシンポジウム「北アルプスと山岳写真の魅力」

平成27年11月23日（月・祝）実施

安曇野アートライン推進協議会主催（山博は同協議会構成員）による第13回安曇野アートラインシンポジウムが、安曇野市穂高交流学習センター「みらい」多目的ホールにおいて登山愛好者や写真愛好者等約90人の参加者を迎えて実施されました。

本年は「北アルプスと山岳写真の魅力」をテーマに、山岳写真家の菊池哲男さんら山岳と山岳写真に造詣の深い４人のパネラーにより、山岳写真の魅力について語り合い、参加者は自身の写真撮影に活かそうと熱心に聞き入っていました。

## 姉妹都市・立川市商店街連合会視察

平成27年11月26日（木）

大町市商工労政課では、大町市の姉妹都市である東京都立川市の立川商店街の連合会会員の皆様との交流の一環として、11月26日～27日にわたり会員の皆様をお招きして、大町市の特産品や食材を知っていただこうと、市内においてそば打ち体験や水源地、水工場、酒蔵などの見学会も開催いたしました。これに併せて大町の魅力や文化についてもご覧いただこうと、山岳博物館や国宝仁科神明宮などの見学会も開催いたしました。博物館では北アルプスを含めた大町の地形の特色や山とともにこの地に暮らした人々の生活や歴史について説明し、参加者の交流が深まりました。

## 理科連携授業　市立大町西小学校４年生　平成27年11月25日（水）〔写真左〕
## 市立大町東小学校４年生　平成27年12月 4日（金）〔写真右〕

市立大町西小学校の４年生（２クラス51人）と市立大町東小学校の４年生（１クラス22人）が「生き物のくらし」と「人の体のつくりと運動」に関する理科の授業を館内の展示を利用して行いました。これは、当館の展示を利用した学校との連携授業のひとつで、市内の全小学校を対象に取り組んでいるものです。

「生き物のくらし」に関する授業では、ニホンライチョウの１年の生活や雌雄の行動の違い、そしてニホンライチョウが生息している自然環境やその保全の必要性について解説を行いました。特に、年３回も羽が生え変わることやライチョウの天敵に興味をもっていただけたように思います。

「人の体のつくりと運動」に関する授業では、初めにヒトとカモシカの足を比較し、次にライチョウやツキノワグマ、タヌキやウシガエルの系統の異なる種の全身の骨格を比較しながら解説やスケッチを行いました。大人でもなかなか出てこない発想や素晴らしい質問が多く挙がり、意欲的に授業へ取り組んでいただけたように感じました。

博物館の展示を利用した学校における各教科の授業を引き続き行い、市内に限らず、市外・県外の学校からも、各種学習などで当館を訪れていただく機会が増えるよう精進したいと思います。

博物館では、インバウンドに対応したパンフレットづくりを㈱電算のAirLibroを利用して準備してきました。平成28年１月から中国語版と英語版がご覧いただけるようになりました。あわせて日本語版もご用意いたしましたので、QRコードを読み取るかまたはURLからアクセスしてみてください。

■中国語版
（http://www.airlibro.jp/books/sanpaku/1/）
■英語版
（http://www.airlibro.jp/books/sanpaku/2/）
■日本語版
（http://www.airlibro.jp/books/sanpaku/4/）

# 博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
・大町市内在住の 65 歳以上の方
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方
（入場の際、受付にてお名前等をご記入ください）

## 植物標本資料整理をしています

山岳博物館では、創立以来の未整理の植物標本の登録を進めるための同定作業を平成27年春からはじめています。作業は、まず、標本のなまえ（和名）を調べることからはじめますが、押し花であることから、木の枝の部分を除くと花や葉は平坦な状態になっています。しかも、色がほとんど抜けていることから、同定には、地域の植物を深く理解していて、分類のキーとなる形態を熟知し、さらにこのような作業の経験が豊富であることが必要となります。

山岳博物館では、中山洌氏（長野県植物研究会会長）に依頼し、これまでに約3,000点を同定していただきました。同定は、平成28年度も継続して行う予定です。同定がおわると、いよいよ標本を台紙に貼り、ラベルを添付する作業に入りますが、こちらは大町山岳博物館友の会サークル「ボランティアの会」のみなさんの協力を得ながら進めてまいります。登録には、学名、採集者、採集年月日、採集地点（緯度経度）などを調べ、入力する作業を伴うことから、かなりの時間を要することとなりますが、最終的には、標本目録を博物館公式Webサイト等で公開するほか、研究に広く活用していただけるようS－Net（サイエンスミュージアムネット）への登録を目指して進めてまいります。

## 館内害虫モニタリング調査をしています

山岳博物館では本年度、館内における展示物や収蔵物への昆虫類による加害状況や発生状況を把握する害虫モニタリング調査を外部委託し実施しております。館内90ヶ所以上に及ぶ各所に調査用粘着トラップを、季節的な変化も考慮し年６回の調査を行っています。これまでも博物館では定期的に簡易燻蒸や書籍等を中心とした浸透性ガス燻蒸（フッ化スルフリル系製剤による24時間燻蒸）を実施してきたところですが、あらためて山岳博物館の虫害の実態を把握し、今回の調査結果に基づいて虫害から守る方法を再検討し、今後昆虫類から収蔵物への加害の拡大を可能な限り抑えていくための方法や、施設整備を実施していきたいと考えています。

一般の方々にとっては、博物館において資料の保存をどのように行っているかわかりずらい面があると思いますが、今回はそうした博物館の大切な資料を後世に残すための活動の一端についてご紹介させていただきました。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
— 創立 1951 年 —

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

1月号
第 60 巻 第 12 号
2016 年

発行日　2015（平成 27）年 12 月 25 日

印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030 FAX.0261-23-2010